



イペアンロー!

(いただきます)

今回は、アイヌ民族にとって大切な植物の一つ「トゥレツ」、オオウバユリです。民族共生象徴空間(ウポポイ)のキャラクター「トゥレツポん」にもなっています。トゥレツはユリの仲間、高さ1メートル以上になり、夏に野山で緑がかった白い花をさかせます。根は、うろこ形の「鱗片」が重なり合った球根です。アイヌはこの球根を食べ、薬にもしました。和食で使うユリ根は、オニユリやヤマユリの球根です。

トゥレツをほるのは、6月後半から7月



カンピョウ(本) 人物伝

沢井トメノさん

「あなたにばあちゃんのことを知ってもらわないと、私が恩返しのためにもアイヌ語を残したいというほんとうの気持ちを、わかってもらえないと思うんだ」

この本は、いまから50年ほど前に、京都出身の和人の女性が十勝の本別町の農家にとまりこみ、その家に住む「トキさん」の話を聞いてまとめたものです。

トキさんは当時67歳。明治時代の終わりに福島県で生まれてまもなく、母の胸にだかれて北海道にきました。しかし、生活が厳しく、アイヌ女性のもとに養子に出されます。土地を求めてたくさんの和人がわたってきた時代は、そんなことがたくさんありました。

トキさんは、養母の清川ネウサルモンさんに、アイヌの言葉と習慣でたいせつに育てられます。学校では「アイヌ」といじめられ、本当の母親が「一緒に暮らそう」と会いに来たりもし

「トゥレツ」オオウバユリ 薬やだんごに

初め。ほりたては、ゆでたり、熱い灰にうめて蒸し焼きにしたりして食べます。せんいはありますが、ほんのりあまい味。球根から、でんぶんもとりました。方法はさまざまですが、一例を挙げましょう。

まず、鱗片をはがして洗います。たるなどに入れ、よくつきつぶしてから、水を加え、まぜながらザルでこします。すると、水とともにでんぶんが流れ出し(①)、ザルにはせんいが残ります(②)。

①のでんぶん入りの水を布でこし、容器に受け取ります。でんぶんがしずんだら、うわずみを捨て、水をかえて何度かくり返します。こうしてとれた「一番粉」は、かわかして保存し、おなか痛いときの薬にしました。布に残ったものをかわかした「二番粉」は、食用です。食べるときは水を加えてだんごにし、おかゆに入れます。

②のザルに残ったせんいも、糸でくわいて使います。そのままかわかしておき、食べたいときについて粉をとるのです。ドーナツ形にしてフキの葉などでつつみ、数日間、オン(発酵・熟成)させてから、かわかす方法もあります。これをオントウレツカム(発酵したオオウバユリの輪)と言い、穴にひもを通して保存します。トゥレツポんが手に持っているのはこれです。

アイヌの世界に生きる

茅辺かのう著

ました。幼いときから畑仕事を任せられ、厳しくもあった養母ですが、それでも、二人のきずなは強かったのです。やがてトキさんは、養母に教えられたすべてを、後世に残したいと考えてようになります。

「トキさん」は仮名で、本名は沢井トメノさんです。人にたよらず生きて、自分の子どもからもがんこと言われましたが、その言葉には相手への気づきがあります。アイヌ語もていねいに教えたそうです。

アイヌ民族に伝わる多くの物語や歌を残したほか、70歳を過ぎてからアイヌ語の十勝本別方言の辞典づくりにも協力し、97年に第1回アイヌ文化賞を受賞しました。

(2021年、ちくま文庫 924円)



「フムフム」はアイヌ語でのあいづち

5月8日、「アイヌ語 義務教育学校で」という記事が北海道新聞にのりました。沖縄県で地域の言葉を教えている学校が、札幌市に小中一貫校をつくりまします。国語や算数などに加え、各学年でアイヌ語の授業もする予定です。

アイヌ語と日本語は、おとなりの言葉です。アイヌ語は、東北地方や北海道、樺太(サハリン)、千島列島で昔から話されてきました。北海道という日本語の名前は、新しいもので、アイヌ語ではヤウンモシリと言います。樺太、千島はそれぞれヤンケモシリ、ルトムと言います。

北海道の市町村の名前は、アイヌ語がもとになっているものが多いですね。東北地方の山形県や宮城県より北には、アイヌ語の地名がたくさんあります。千年以上前、日本語を話す人々とアイヌ語を話す人々の境界が、このあたりにあったため、地名にもそのなごりがあるとされます。

アイヌ語と日本語は、発音のしかたや文章の組み立て方にちがいがあります。

(クアニ) チカ ヲトウツ タ、アマメチガ イヨツタ クエラマス。

小さな「ッ」は、くちびるをとじたところで止める音です。韓国語にもこのような音がありますが、日本語にはありません。また、アイヌ

アイヌ語と日本語 文章の組み立て方にちがい



語では主語のちがいが述語に表れます。述語のものと形は「エラマス」ですが、主語が「クアニ」なら「クエラマス」になります。つまり、文の中に主語が2回出てくるので、最初の「クアニ」は言わなくてもわかります。北海道内には1500余りの小中学校がありま

すが、アイヌ語は、そのほとんどで学ぶことができません。さいきんになって、千歳市の末広小や日高の平取町の二風谷小で学べるようになりました。札幌の学校ができれば、中学校では初めてのことです。

きょうのこ と ば

多文化共生と社会

アイヌ文化や沖縄文化、日本文化などをもつ人々が、たがいの文化を大切にしてくらすことを多文化共生といいます。

文化は、家庭や学校で教えたり、自然に身につくような環境を整えたりすることで、次の世代に続いていきます。また、学校で教わる言葉は、テレビやラジオでも使われ、仕事をするときにも使う、その国の「正式な言葉」でもあります。

世界には、いくつもの「正式な言葉」を学校で教える国がたくさんあります。学校で教えない言葉を使うのは、はずかしい・変だと感じる人もいます。どの言葉も自信をもって使えるようにするには、学校で教えることが大切です。

アイヌ語を身近に

私たちのくらしには、いたるところに英語が使われています。そのため、学校で教わる前から知らずにたくさんの英語の単語を使っています。同じように、身の回りで見られることで、アイヌ語も「知らない言葉」ではなくっていきます。

JR北海道や道南バスでは、数年前から、一部の車内放送でアイヌ語が流れるようになりました。沖縄では、うちなーぐち(沖縄ことば)によるラジオ体操が広まっており、これを参考にしたアイヌ語ラジオ体操もあります。

家庭や学校で勉強するための方法も増えています。だれでもダウンロードできるアイヌ語カルタや、パソコンやタブレット端末で遊べるアイヌ語ゲーム、YouTubeのアイヌ語動画講座などがあります。

クイズの答え

カルシ=キノコ、イセポ=ウサギ、キナ=草、キムンカムイ=クマ、モユク=タヌキ、フンペ=クジラ、チロンヌブ=キツネ、トウカラ=アザラシ、ケブ=魚、アンパヤヤ=カニ、スサム=シシャモ、ノンノ=花、ニウウェオ=リス